

セグメント情報

事業の種類別業績

機械加工品事業

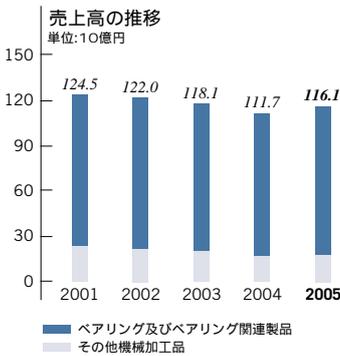
連結売上高の39%を占める機械加工品事業は、ボールベアリング、ロッドエンド&スフェリカルベアリング、ピボットアッセンブリーなどの「ベアリング及びベアリング関連製品」、特殊機器、ネジ類などの「その他機械加工品」に分けられます。



主要製品群、市場と市場での位置付け

製品群	主要市場	当社の世界市場占有率と順位(注)
ベアリング及びベアリング関連製品		
ボールベアリング	各種小型モーター、家電、情報通信機器、自動車	1位 60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	1位 50%
ピボットアッセンブリー	HDD	1位 65%
その他機械加工品		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	

注：市場占有率と順位は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を当社で推定。ボールベアリングはミニチュア・小径のみ。



当期のハイライト

- 機械加工品事業の全主要製品の売上高が増加。主要製品の好調と原価低減により、営業利益が増加し、営業利益率が向上。
- ミニチュア・小径ボールベアリングの「月産1億8,000万個体制の構築」を継続して実施、拡販と原価低減を推進。
- 小型HDD向けピボットアッセンブリーの販売が急増。
- 航空機の新機種対応により、ロッドエンド&スフェリカルベアリングで新規分野を開拓。

当期の市場環境

- 世界経済は比較的堅調に推移。
- デジタル家電の普及拡大により、HDD市場が拡大。
- 下期以降、民間航空機の需要が回復。
- 鋼材価格の高騰。

重点課題と今後の方針

- ミニチュア・小径ボールベアリングの事業拡大方針を継続する一方、マーケティングに基づいた最適地生産を実施。
- ピボットアッセンブリーの原価低減。

業績及び事業詳細

機械加工品事業の売上高は1,161億5百万円と、前期比44億12百万円(4.0%)の増加となりました。機械加工品事業の営業利益は215億72百万円と前期比20億67百万円(10.6%)の増加となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は18.6%と、前期から1.1ポイント上昇しました。

主要製品

ベアリング及びベアリング関連製品
ミニチュア・ボールベアリング
小径ボールベアリング
シャフト一体型ボールベアリング
ロッドエンドベアリング
スフェリカルベアリング
ローラーベアリング
ジャーナルベアリング
ピボットアッセンブリー
テープガイド

その他機械加工品
航空機用・自動車用ネジ類
特殊機器
電磁クラッチ / 電磁ブレーキ

ベアリング及びベアリング関連製品事業

当期のベアリング及びベアリング関連製品事業の売上高は前期比36億14百万円(3.8%)増加し、982億18百万円となりました。

ボールベアリング

当期、主力のボールベアリング事業の事業規模の拡大追求と徹底的なコスト競争力強化を柱とする「月産1億8,000万個体制の構築」を引き続き実施しました。拡大する需要を背景に好調に販売数量を伸ばし、社内使用を含む販売数量は10%近く伸長しました。単価は比較的安定して推移し、売上高は前期より増加しました。また、期を通して大幅なコスト低減を実現した結果、営業利益及び利益率は一層向上しました。今後も需要はさらに拡大し、当面は年率10%又は10%を超える数量ベースの成長が続くと予想しています。中国製家電などの需要増に押されて市場が急速に拡大しつつあること、また、デジタル家電の普及や家電、情報通信機器、自動車などの高知能化などにより、新しい需要が生まれてきているからです。一方、需要の拡大に合わせて競争が激化することも予想されます。来期は、このようなボールベアリング市場の変化に対応して数量と損益のバランスを重視した事業拡大方針を継続する一方、マーケティングに基づいた最適地生産を進めます。即ち、各地域における各分野の市場ニーズを的確に把握し、工場ごとの特性を生かした工場運営を推進します。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング

ロッドエンド事業は下期以降の航空機市場の回復を受け、大幅に回復しました。新機種向けに新規ビジネスの開拓も進みました。来期は生産能力を引き上げ、さらなる需要の拡大に対応して参ります。

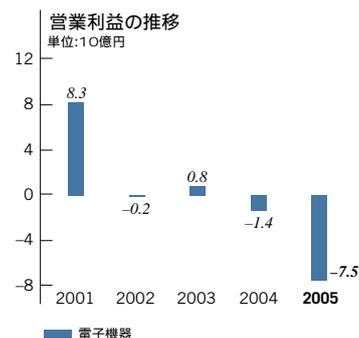
ピボットアッセンブリー

ピボットアッセンブリーは、拡大するHDDの需要を取り込むべく1.8インチ以下のHDD用小型製品の市場投入とコスト競争力の強化に努めた結果、売上高が伸長し、利益も向上しました。来期は、小型製品及びそれらの内製部品である超小型ボールベアリングの生産能力の引き上げと自動組立ラインの追加投入により対応力をさらに強化し、収益の拡大をはかります。

その他機械加工品事業

その他機械加工品事業の売上高は前期比7億98百万円(4.7%)増加し、178億87百万円となりました。特殊機器製品の売上高が増加しました。

電子機器事業



連結売上高の61%を占める電子機器事業は、HDD用スピンドルモーター、ミネベア・松下モータ合弁事業の情報モーターを中心とする「回転機器」、キーボード、ライティングデバイス、スピーカーなどの「その他電子機器」に分けられます。

主要製品群、市場と市場での位置付け

製品群	主要市場	当社の世界市場占有率と順位(注)
回転機器		
HDD用スピンドルモーター	HDD	2位 15-20%
ミネベア・松下モータ合弁事業の情報モーター	PC、家電、情報通信機器、携帯電話	2位 15-20%
その他電子機器		
キーボード	PC	2位 15-20%
液晶用LEDバックライト	携帯電話、デジタルカメラ	5-10%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	

注：市場占有率と順位は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を当社で推定。

当期のハイライト

ミネベア・松下モータ合弁事業の設立、キーボードの受注増加、液晶用LEDバックライト事業の拡大により、売上高が増加。

HDD用スピンドルモーター、ミネベア・松下モータ合弁事業、キーボードの3事業の業績不振により、損益が大幅に悪化。

当期の市場環境

PC市場が拡大。

小型HDDの需要が急拡大。

デジタル家電の本格的普及が開始。

重点課題と今後の方針

HDD用スピンドルモーター、ミネベア・松下モータ合弁事業、キーボード事業の収益改善。

液晶用LEDバックライトなどディスプレイ周辺部品の事業拡大。

業績及び事業詳細

電子機器事業の売上高は1,783億17百万円と、前期比214億36百万円(13.7%)の増加となりました。電子機器事業の営業損失は74億89百万円と、前期比60億88百万円の損失増加となりました。売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)はマイナス4.2%と、前期から3.3ポイント低下しました。

主要製品

回転機器

ハードディスクドライブ(HDD)用
スピンドルモーター
ファンモーター
ハイブリッド型ステッピングモーター
PMステッピングモーター
ブラシ付DCモーター
振動モーター
ブラシレスDCモーター
VRレゾルバ

その他電子機器

パソコン(PC)用キーボード
スピーカー
エレクトロデバイス製品

光磁気ディスクドライブ(MOD) 液
晶用ライティングデバイス、フロッ
ピーディスクドライブ(FDD)用磁気
ヘッド、バックライトインバーター
計測機器
ひずみゲージ、ロードセル

回転機器事業

回転機器事業の売上高は前期比200億9百万円(23.1%)増加し、1,067億50百万円となりました。

HDD用スピンドルモーター

当期のHDD用スピンドルモーター事業は大きく低迷しました。期初にコスト競争力のある新型FDBモーターを発表してサンプル活動を実施しましたが、量産出荷には至らず、当社の主要市場である3.5インチ・デスクトップ市場におけるシェアは低下しました。また、2.5インチHDDや1.8インチ以下の小型HDDの需要が急速に拡大しているなか、当社では小型HDD用FDBモーターへの参入を果たしていません。このような製品構成の問題と生産販売数量の落ち込みにより、当期は売上高が減少し、固定費をカバーできず大幅な損失を計上しました。来期は、各部品及び各工程の徹底的な原価低減に注力します。

ミネベア・松下モータ合弁事業

ファンモーター、ステッピングモーター、ブラシ付DCモーターと振動モーターの情報モーター等を製品群とするミネベア・松下モータ合弁事業では、2004年4月1日の事業開始以降、業績が当初の予想を大幅に下回り、低迷しました。移管製品の販売単価の急落と需要の落ち込み、並びに統合費用の増加によるものです。この状況を受けて、下期初めに構造改革に着手しました。具体的には、生産移管の推進と生産拠点機能の見直し、源泉部品生産及び外注生産の体制見直し、生産性向上を中心とした合理化の徹底実施などです。また、松下電器産業株式会社とのロイヤリティ等の支払いの見直しも行いました。来期は、製造統合を中心とした構造改革を完了することによりコスト競争力を強化し、当初の目的であった製品開発及び販売面のシナジー実現への展開をはかって参ります。

その他電子機器事業

その他電子機器事業の売上高は前期比14億25百万円(2.0%)増加し、715億66百万円となりました。

キーボード

当期のキーボード事業は新規顧客の獲得が進み、過去最高の売上高を記録しました。しかし、2003年8月以降、タイから中国・上海の製造子会社SST社への生産移管を進めていますが、当期は生産移管に伴う費用の増加、SST社の生産体制の確立の遅れやプラスチックの原材料であるレジンの価格高騰、生産移管と受注急増のタイミングが重なったことなどにより、損失が拡大しました。現在、デスクトップ型PC用キーボードの移管はほぼ完了し、来期はノート型PC用の移管を進め、すべての移管を完了させる予定です。早期の完了により二重固定費構造に終止符を打つ一方で、原材料を含め原価の見直しを行い、採算性を改善して参ります。

ライティングデバイス

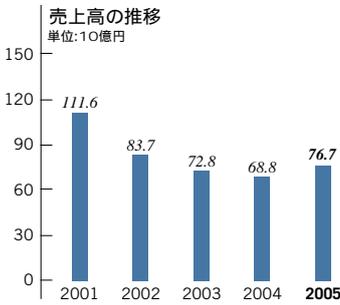
液晶用LEDバックライトを中心とするライティングデバイス事業では、下期の携帯電話業界の需要調整の影響を受けましたが、タイムリーかつ高付加価値市場に重点を置いた新製品開発により、顧客と採用機種が増え事業が拡大しました。来期は一層の事業拡大を目指し、高輝度LEDバックライト製品のほか、将来自動車に搭載されると予想される中型液晶用バックライトを市場に紹介して参ります。

スピーカー

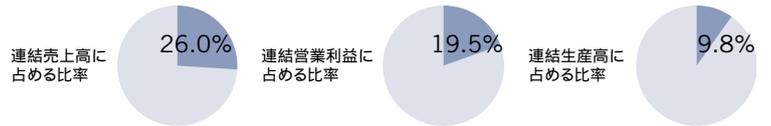
当期のスピーカー事業は順調に推移しました。主にオーディオ機器やPC向けに売上が増加しました。来期は、オーディオ機器の需要の減少もあることから、収益の減少が見込まれます。

所在地別業績

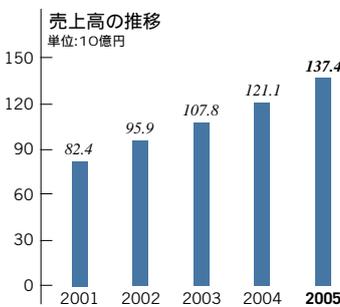
日本



日本地域は、ミネベア・松下モータ合弁事業の発足に伴い、ブラシ付DCモーター、振動モーター等の情報モーターが加わり、売上高は766億60百万円と前期比79億円(11.5%)増加しましたが、情報モーター事業費用の増加も加わり、営業利益は27億52百万円と前期比21億31百万円(43.6%)の減少となりました。



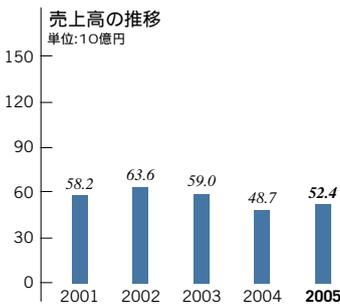
アジア(日本を除く)



アジア地域は、日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域です。HDD関連業界の在庫調整の影響はあったものの、情報通信機器関連業界の需要回復や堅調な家電業界の需要に支えられ、販売は堅調に推移しました。一方、利益面ではHDD用スピンドルモーターの生産減少による固定費負担増、情報モーター部門の事業構造改革及びキーボード生産拠点の移転に伴う費用増などにより厳しい状況となりました。この結果、売上高は1,374億24百万円と前期比163億52百万円(13.5%)増加しましたが、営業利益は58億70百万円と前期比48億93百万円(45.5%)の減少となりました。



北米・南米



北米地域は、情報通信機器関連顧客のアジアへの生産移管が進んだものの、キーボードその他の電子機器部品は堅調に推移しました。また、米国生産のボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングは、受注・販売共に好調に推移しました。この結果、売上高は523億90百万円、営業利益は45億10百万円と、前期比それぞれ36億64百万円(7.5%)の増加、24億26百万円(116.4%)の増加となりました。



欧州



欧州地域は、緩やかな経済成長のなかで、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しましたが、キーボード等の電子機器が低調で、売上高は279億48百万円、営業利益は9億51百万円と、前期比それぞれ20億68百万円(6.9%)の減少、5億77百万円(154.3%)の増加となりました。



(注)売上高：外部顧客に対する売上高